

こ ども の き も の (第2報)

学童服に関する実態調査

荻野千鶴子・酒井清子・早坂美代子
後藤喜恵・加藤恵子・豊田幸子
秋田峯子・戸松みさ子

The Children's Wears (Part II)

The Research on the Actual Condition of the School Children's Clothes

by

C. OGINO, K. SAKAI, M. HAYASAKA,
Y. GOTO, K. KATO, S. TOYODA,
M. AKITA and M. TOMATU

緒 言

第1報、幼児服につづき、今回は学童服の調査を行なった。小学生は心身の発達過程に特徴があり、これか、きものに及ぼす影響が大きいと予想されるので、市販されている学童女兒の既製服を対象にして、学年別服種別衿の種類、装飾、ポケット等を調べ、また通学服の条件その他について調査した結果を報告する。

市販されている学童女兒既製服について (冬, 合服)

1 調 査 対 象

名古屋市内及びその周辺における、小学生女兒学童

2 時 期

昭和42年3月～4月の2カ月間

3 方 法

調査形式は、各小学校女兒学童6才～12才までを対象に調査用紙を配布し、父兄または本人か、質問事項について記入したものを集計し考察した。調査用紙は、1100枚を配布し、回収率は、70%であった。

4 結果並びに考察

(1) 学年別用途別所持枚数

地域別学年別に集計した結果、地域差かあまり見られなかった。こどもの衣生活は、母親の考え方か多く影響するのではないかと考えたので、学年別に母親の年齢をみると、1～2年生では、20～30代、3年生以上では、30～40代か多い。

学年別に外出着、通学着、日常着の所持枚数を調べると、(第1表)外出着は、各学年を

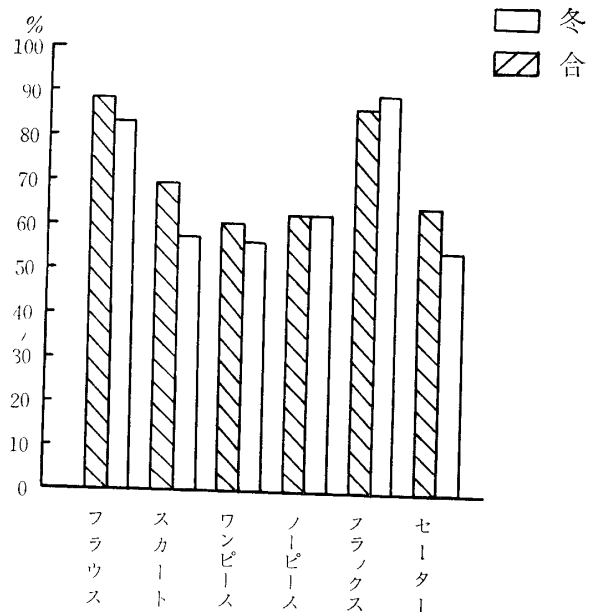
用途	季節	学年	枚数									
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10以上
外出着	冬	1	56	42	19	3	4	0	0	0	0	0
		2	41	50	20	4	7	2	0	0	0	0
		3	26	37	16	5	5	0	0	0	0	0
		4	51	60	25	5	12	0	1	1	0	0
		5	55	76	39	12	13	1	1	1	0	0
		6	54	108	58	42	21	4	10	1	0	5
	合	1	51	41	13	3	4	3	0	0	0	0
		2	36	38	15	8	3	0	6	0	0	0
		3	16	17	9	2	2	0	0	0	0	0
		4	44	33	10	3	4	0	1	1	0	0
		5	23	54	21	11	9	2	3	1	1	0
		6	38	55	38	9	21	10	4	4	1	10
通学	冬	1	4	30	43	18	23	6	2	0	0	2
		2	0	19	41	14	29	4	3	1	0	5
		3	3	19	32	13	17	6	2	0	0	2
		4	14	53	33	20	17	4	2	2	0	5
		5	33	54	26	9	18	5	5	9	1	7
		6	24	100	44	22	11	5	8	13	4	35
	合	1	2	24	35	25	19	5	2	0	0	1
		2	1	13	35	17	15	6	2	1	0	1
		3	0	11	12	6	10	5	0	0	0	0
		4	9	26	4	7	12	2	0	0	0	3
		5	19	55	20	17	14	2	3	6	0	1
		6	18	50	42	25	17	4	2	1	0	13
日常	冬	1	2	28	29	23	21	6	2	1	0	4
		2	2	27	40	11	23	6	3	3	3	4
		3	0	18	21	8	20	7	3	1	1	2
		4	4	32	42	13	26	7	8	7	0	10
		5	5	30	50	18	39	15	6	0	0	11
		6	7	21	44	26	36	13	16	4	5	17
	合	1	4	24	28	16	18	3	1	1	1	3
		2	2	24	20	16	15	4	2	1	0	1
		3	0	10	12	4	13	3	1	0	0	1
		4	3	25	27	9	15	1	2	3	0	7
		5	11	28	37	17	29	10	8	0	6	5
		6	6	25	34	22	27	8	4	5	4	36

1表 用途別, 学年別, 所持枚数

通じて、1枚または2枚持っている者が多かったか、特異なものとして6年生で外出着、通学服を10枚以上というのがあった。これは用途を区別していないのではないかと思われる。通学服では、各学年とも2枚～4枚が多い。また外出着、通学着の古くなったものを、日常着として用いるため、所持枚数が多いものもあった。

(2) 各服種別既製服の利用度

服種別既製服の利用度について調べた結果、各学年を通じてブラウスを見ると、冬のブラウスは平均、既製服84%、手製16%で最も多く利用している。その他の服種も既製服を多く利用している。(第1図)



1図 各服種別既製服の利用度

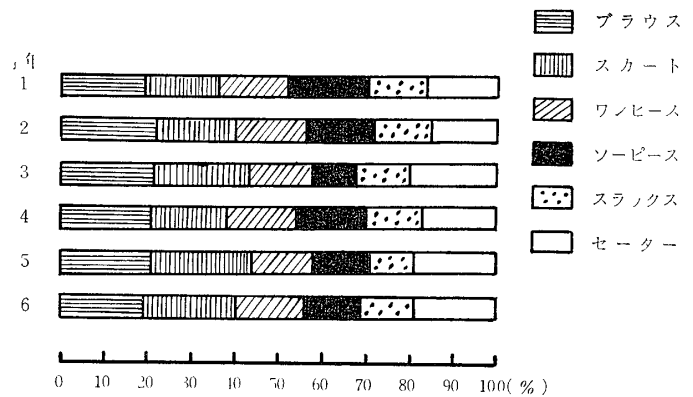
(3) 学年別服種

第2図に表われた各服種は、各学年を通じて余り差が見られず、同じような結果であった。

(4) 所持服について

(a) 年齢別衿の種類

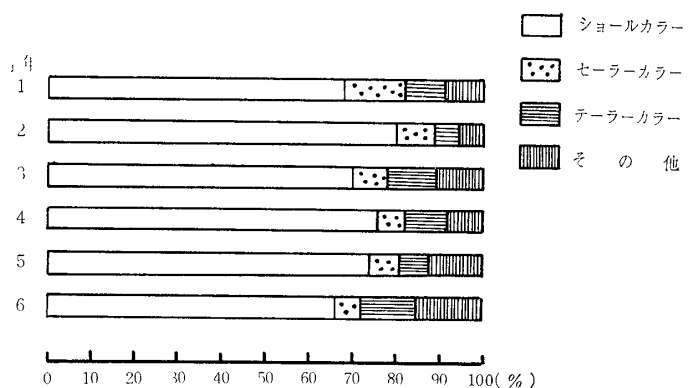
第3図のように、各服種の衿について調べた結果、セーターを除くほかはか、衿が多い。これらの衿について、その傾向を見ると、衿の種類は、各学年とも、ショールカラーかもっとも多く、66%以上をしめ、セーラーカラー、テーラーカラーかわずかにあり、その他として、フラットカラー、ロールカラー、スタンドカラーかみられた。



2図 学年別服種

(b) 年齢別服種別ポケット

子供服の条件として必要な、ポケットについて調べた結果、そのほとんどに、ポケットがついている。ポケットのない服としては、ブラウス、セー



3図 学年別衿の種類

ターかその半数以上をしめていた。(第4図)これらのポケットについて、実用的かどうか調べてみると、実用的との回答が少なかったのは、ポケットの上に飾りかついていれば、一つの装飾として記入されたためではないかと推察される。

(c) 年齢別服種別装飾

第5図(イ)の年齢別装飾を見ると、ワンピースにおいて見られる装飾では、6才はボタンが多く、次いで、リボンで、これを全体に見ても、これと同傾向で、ボタン、リボン、これに次いで、レースの順になっている。

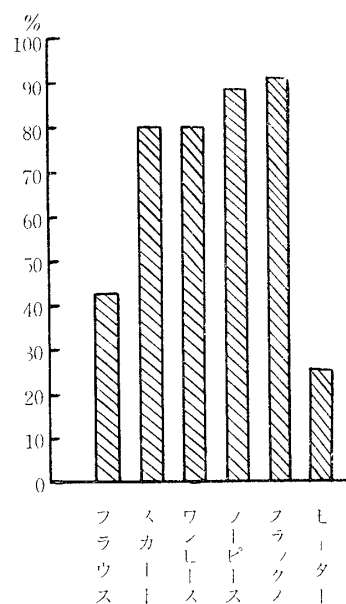
最近小学校においても、制服の利用が増している傾向で、その意見をまとめて見ると、平均80%の制服希望者であり、賛成理由として、経済的、華美にならない、皆公平、規則がある等の意見が多く、制服反対意見としては、帰校後着かえるのが不便、あるものか着られない等の点かあけられていた。

また、通学服の条件としては、1～3年生では、洗濯しやすい、活動的、保温力があるもの等、これらは母親の意見かかなり入っているのではないかとと思われる。また、4～6年生になると、自分の好みか入り、服のデザイン、形、色彩に注文か出て、低学年と違い、美しく装いたいと思う心か、芽生えてくると思われる。

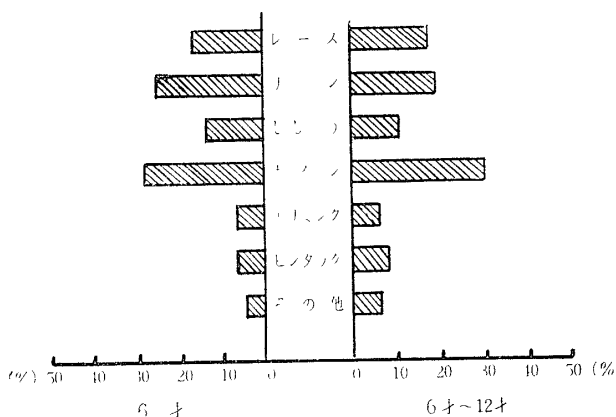
学童服のうちワンピースにみられる合服と冬服の比較 (デパート調査)

1 調査対象

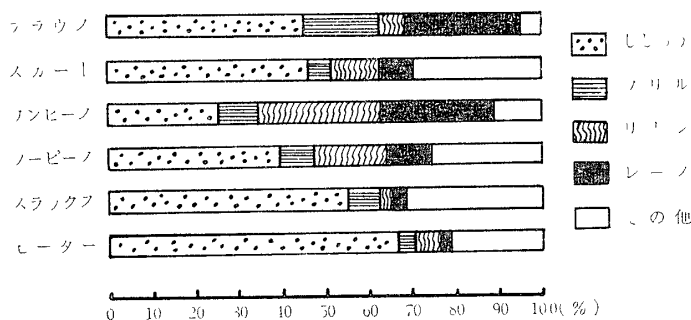
名古屋市内のデパート、4カ所(名鉄、丸栄、オリエンタル中村、松坂屋)の子供服売場を主体とし、これの地方との差をみるため参考として、東京、大阪、京都の各市内のデパートを選び、そこで販売されている女兒既製服(春300着、秋冬200着)を対象とした。



4図 服種別のポケット



5図(イ) 年齢別装飾 (ワンピース)



5図(ロ) 服種別装飾

2 時 期

第1回 昭和42年2月～4月の3カ月

第2回 昭和42年9月～11月の3カ月

3 方 法

ますデパートの子供服売場における，女兒服のうちワンピースについて並べられている服の中から同一服種を除いた，総計500着について，子供服として必要な条件である材質，価格，装飾の種類について調査した．この結果，地域差はほとんどみられず，価格，寸法，メーカーもほぼ同じ傾向であった．

4 結果および考察

1) 材 質

調査した結果，1．2回とも材質は，ウール100%か最も多く，全体の60%を占め，次にウール30%，アクリル70%の混紡であった．これは時期的に合から冬にかけていることと，ウールが多く，また，化学繊維の進出か最近著しいため，ウールと化学繊維との混紡かめだった．

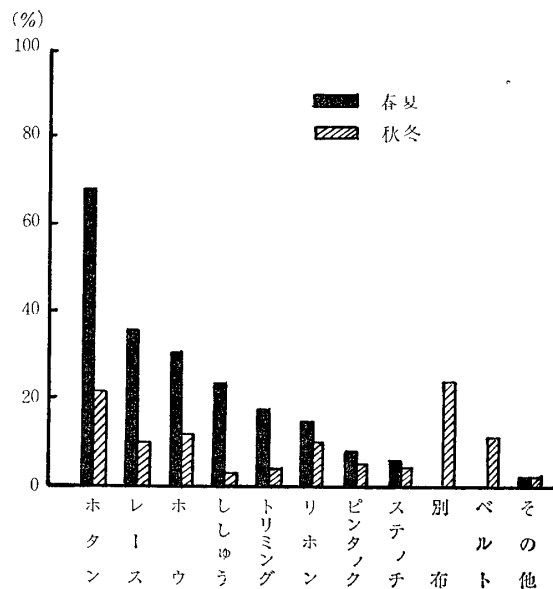
2) 価 格

各デパートの一般売場にみられるワンピースの価格は，ウール100%でも，混紡でも，あまり大差かみられない．春着では，最高か5,500円，安いものでは，2,300円位．秋冬着では，最高か5,800円，安いものでは，3,300円位という結果であった．その他特売場では900円位のものもみられた．一般的に婦人服にくらべ，子供服は高価のように思われる．

3) 装 飾

子供服において，かわいらしさを表現するものとして，まず，装飾がある．装飾の種類（第6図）は，春着では，ボタンか最も多く，つづいてレース，ボウの順になっている．秋冬着では，別布か多く，つづいて，ボタンの順であった．以上の結果，春着では，材質が薄地のため，ボタン，レースか多く，秋，冬着では，別布の扱いが多い．

4) 参考として，七五三に喜はれる，ベルベットのワンピースを調査した結果，色彩は，赤，黒か多く，次いで，グリーン，紺の順であった．また，使われている装飾については，コード紐，レース，スパンコール，ビーズ刺繍，リボン，造花，フリルであり，別布の扱いとして，銀ラメ，白サテン，銀糸のステッチ等数多い装飾かみられた．



6図 装飾の種類

総 括

市販されている学童女兒既製服について（冬，合服）

1 既製服か，各学年，各服種ともに圧倒的に多い．

- 2 服種を問わず衿の型は，シヨールカラーが多い。
- 3 ポケットは，スラッシュポケットか最も多い。服種により，はりつけポケットかこれに次ぐ。
- 4 装飾については，ボタン，リボンの装飾が約半数を占めている。
- 5 各小学校で制服を希望しているものか，多くみられた。その理由の主なものとしては，経済的であるから，華美にならないからであった。

学童服のうちワンピースにみられる合服と冬服の比較（デパート調査）

- 1 材質は，合，冬服ともに，ウール 100% が多い。
- 2 装飾については，全体にボタンが多い。合服では，レースが多い。冬服では，別布の扱いが多くみられた。
- 3 色彩については，婦人服の流行色と関係がなく，やはり子供らしい，赤，紺が喜ばれる傾向であった。織り方としてはニット，ジャージ等が最も多く利用された。また，デザインの 1 部にベルベットの扱いが多くみられた。これは婦人服の影響ではないかと思われる。
- 4 七五三のワンピースは，材質として，ほとんとかベルベットであり，装飾の種類も多くみられた。

本調査を行なうにあたり，御協力いただいた三重大津附属小学校，松坂花岡小学校，桑名修正小学校，新城小学校，東築地小学校，千成小学校，蒲郡南部小学校，富木島小学校，名古屋市内デパート（名鉄，丸栄，オリエンタル中村，松坂屋）並ひに学童その父兄に感謝の意を表す。

参 考 文 献

- 1) 荻野千鶴子・(1967) こどものきもの(第1報) 女児服に関する実態調査, 名古屋女子大学紀要, 13
- 2) 酒井清子外 (1967) 子供既製服の実態調査とその研究—幼児服—名古屋女子大学紀要, 13